

# 100名の医学士誕生

## —第73回卒業式—

第73回卒業式にともなう医学部学士学位伝達式が3月25日午後3時より吹田キャンパスの医学部A講堂にて執り行われた。本年度は100名の新医学士(うち女性11名)が誕生した。本年度の医学部楠本賞は上条彰子さんに授与された。

伝達式においては、山西弘一医学部長より一人一人に学位が授与された山西医学部長は挨拶の中で、緒方洪庵がドイツの医師フーフェランドの書より翻訳した「扶氏医戒之略」について述べられた。「一、医の世に生活するは人の為のみ、おのれがためにあらずということを其業の本旨とす。一、病者に対しては唯病者を見るべし。貴賤貧富を顧ることなかれ。一、學術を研精するの外、尚言行に意を用いて病者に信任せられんことを求むべし。一、不治の病者も仍其患苦を寛解し、其生命を保全せんことを求むるは、医の職務なり。」と、全体12条の中からいくつかの条文を抜粋し引用され、大阪大学医学部の卒業生が良い医師でありかつ良い医学研究者として研鑽されるようにと励まされた。

続いて松澤佑次病院長より、激励の言葉がかけられた。病院長は、和歌山県田辺出身の南方熊楠を引用し、「こと」を「こと」として理解することの重要性と医療を単に「もの」として見る視点の危険性を指摘され、卒業生の方には単なる「もの」を見る視点を越えて医療に尽力されるようにとの話をされた。

最後に松本圭史学友会理事長より祝辞が述べられた昔は医師中心の医療であったが現代は老人医療・慢性疾患医療が中心であり、多くのコメディカルサポートによってなりたっているためにチーム医療のリーダーとして働かなければならないことから、学問ができるだけでなく人に信頼され人を活用する能力も磨くようにと励まされた。また、学友会の活動の意義を話され、学友会に新たな仲間を加える喜びを述べられた。ついで学友会からお祝いの金一封が理事長から卒業生に贈られ、学位伝達式を終了した。

さらに、平成13年度「山村賞」授与式も併せて行われた。本年度は学部学生は村田信介君に、そして博士課程については大学院4年次の真田昌爾君(病態情報内科学)と岸田堅君(分子制御内科学)とにその栄誉が贈られた。

田中 稔久(昭63)



[戻る](#)